

人々の価値観やニーズが大きく変わりつつある時代、デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進に求められる人材のイメージは次のようなものだ。人々の活動に対する鋭い洞察力、新たな価値を見出す柔軟な発想力、いち早く実践する迅速な行動力、さらにデジタルの理解と分析力も欲しい。理想ではあるが、こんなスーパーマンのような人材はそうはいない。こうした人材を探し求めたり、育成計画

この変化の激しい時代に培うべき「デジタルマインド」とはまさに、デジタル活用に伴う慣習の変化、発想の転換、新しいことを自ら積極的に進める姿勢である。これを身に付ければよいと言いたいところだが、そう簡単にはいかない。人間は誰も程度の差こそあれ一定の思考や判断の



梅木 秀雄（うめき ひでお）テクノロジ・エバンジェリスト、コンサルティング事業本部ココロミルラボ室長

度決断すると都合の良いことばかり集めてしまう「確証バイアス」などがよく知られている。こうした認知バイアスは

平均値と最低値はいずれも年代が進むにつれて低下していく傾向が見られた。未知の体験に臨む前に、体験者を常に見え化する、②第三者からの意見を聞く、③

デジタルマインド培う体験

ナラティブDX経営(2)

理解と分析力も欲しい。理想ではあるが、こんなスーパーマンのような人材はそうはいない。こうした人材を探し求めたり、育成計画

呼ばれるこの傾向は、人間が長い歴史の中で獲得してきた不確定な環境で生き抜くための心理作用である。

これが、デジタルマインドを阻害する。具体的には、未体験のものを受け入たなくない「現状維持バイアス」、被害を受ける可能性があっても自分だけは大丈夫という「正常性バイアス」、一

最悪なケースもシミュレーションして議論する、④未体験のことは積極的に体験する計画を立てる。日頃のデジタル体験の幅を広げることから意識してはどうだろう。以前社内研

修で、世の中の20種類のデジタルサービスについて利用経験数を尋ねた。20代から50代で、最高値は年代間で差があまりなかったが、平均値と最低値はいずれも年代が進むにつれて低下していく傾向が見られた。未知の体験に臨む前に、体験者を常に見え化する、②第三者からの意見を聞く、③そこに共感できるナラティブ（物語）があるかどうか

（毎週木曜日に掲載）

